



博多港・福岡空港の概況

令和4年9月
福岡市港湾空港局

= 目 次 =

第1章 博多港の物流

1. 国際海上コンテナ取扱個数（TEU ベース） … P.1
 - （1）取扱個数の推移
 - （2）令和3年の取扱個数減少の主な要因
 - （3）貨物の内訳【参考：国内主要港との比較（令和2年）】
2. 国際海上コンテナ定期航路と寄港地 … P.4
3. 海上出入貨物（トンベース） … P.5
 - （1）海上出入貨物量の推移
 - （2）令和3年の貨物量増減の主な要因
 - （3）外国貿易
 - （4）内国貿易

第2章 博多港の人流

1. 船舶乗降人員 … P.10
 - （1）船舶乗降人員数の推移
2. うち外国航路船舶乗降人員 … P.11
 - （1）外国航路船舶乗降人員数の推移【参考：国内上位5港の推移】
3. クルーズ船の寄港回数 … P.12
 - （1）クルーズ船の寄港回数の推移

第3章 博多港の入港船舶

1. 入港隻数及び総トン数 … P.14
 - （1）入港隻数及び総トン数の推移

第4章 福岡空港の概況

1. 乗降客数 … P.15
 - （1）乗降客数の推移【参考：国内主要空港との比較（令和3年）】
2. 貨物取扱量 … P.16
 - （1）貨物取扱量の推移【参考：国内主要空港との比較（令和3年）】
3. 発着回数 … P.17
 - （1）発着回数の推移【参考：国内主要空港との比較（令和3年）】
4. 路線状況 … P.18

第1章 博多港の物流

1. 国際海上コンテナ取扱個数（TEU ベース）

【令和3年港湾統計確定値】

取扱個数：約 89 万 TEU

外貿ダイレクト：約 81 万 5 千 TEU、内貿フィーダー：約 7 万 5 千 TEU

（1）取扱個数の推移

令和3年の国際海上コンテナ取扱個数は、新型コロナウイルス感染症の影響等により、輸移出入ともに令和2年と同程度となっている。

【表 1-1】

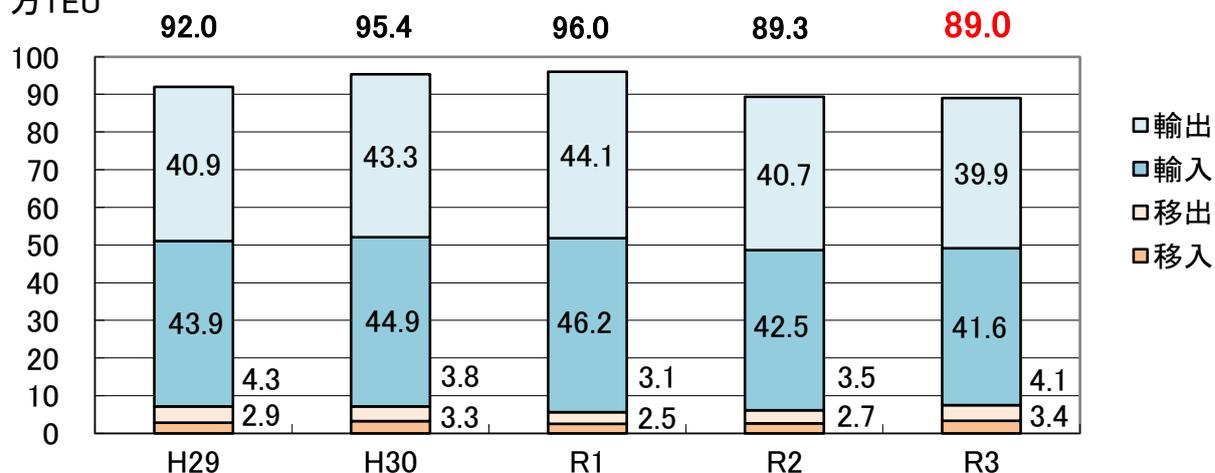
（単位：TEU）

区 分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	増減（R3/R2）	
					数量	数量	前年比
博多港全体	920,149	953,548	960,085	893,301	890,026	▲ 3,275	99.6%
輸移出	451,920	471,276	472,708	441,499	439,944	▲ 1,555	99.6%
輸移入	468,229	482,272	487,377	451,802	450,082	▲ 1,720	99.6%
外貿ダイレクト	848,612	882,199	903,566	832,133	814,998	▲ 17,135	97.9%
輸出	409,217	432,810	441,367	406,913	398,554	▲ 8,359	97.9%
輸入	439,395	449,389	462,199	425,220	416,444	▲ 8,776	97.9%
内貿フィーダー	71,537	71,349	56,519	61,168	75,028	13,860	122.7%
移出	42,703	38,466	31,341	34,586	41,390	6,804	119.7%
移入	28,834	32,883	25,178	26,582	33,638	7,056	126.5%

※TEU…コンテナを数えるときの単位で、20 フィートコンテナ換算個数

【グラフ 1-1】

万TEU



（2）令和3年の取扱個数減少の主な要因

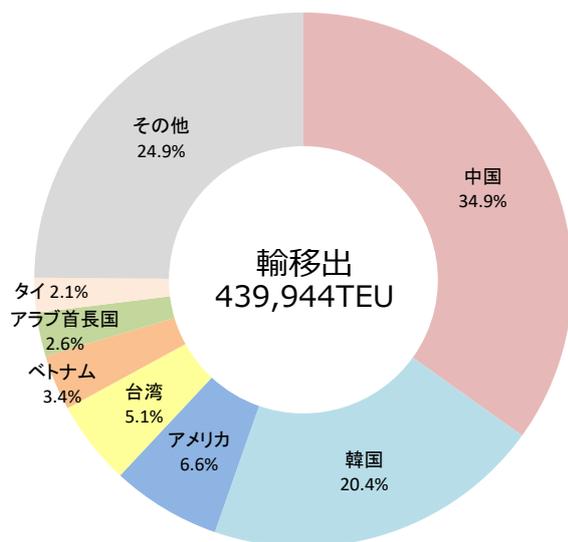
輸移出…完成自動車(同▲9千TEU)や衣服・身廻品・はきもの(前年比▲1千TEU)の減少等
 輸移入…衣服・身廻品・はきもの(同▲5千TEU)や水産品(同▲3千TEU)の減少等

(3) 貨物の内訳

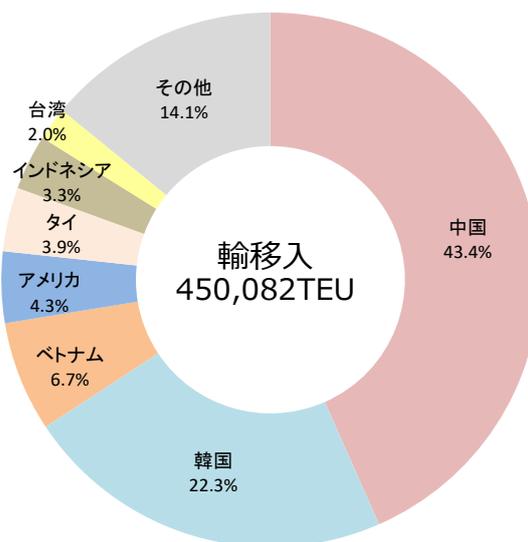
① 相手国別

中国や韓国、台湾などの東アジア地域が、輸移出の約6割、輸移入の約7割を占めている。

【グラフ 1-2】



【グラフ 1-3】



② 主要取扱品種

輸移出では、主に北米や中近東向けを中心とする「ゴム製品（タイヤ等）」や「完成自動車（中古車）」「自動車部品」など、自動車関連産業貨物が上位に挙がる。

輸移入では、主にアジア諸国からの「家具装備品」や「衣服・身廻品・はきもの（衣類関係）」「電気機械」などの生活物資が上位を占めている。

【表 1-2】

(単位: TEU)

輸 移 出					輸 移 入						
順位	品 種	取扱個数	主な輸出相手国			順位	品 種	取扱個数	主な輸入相手国		
1	ゴム製品	53,181	アメリカ	アラブ首長国	ロシア	1	家具装備品	51,284	中国	ベトナム	韓国
2	産業機械	21,609	韓国	中国	アメリカ	2	衣服・身廻品・はきもの	36,637	中国	ベトナム	韓国
3	再利用資材	21,531	台湾	ベトナム	韓国	3	動植物性製造飼肥料	36,020	韓国	アメリカ	オーストラリア
4	完成自動車	※ 18,938	中国	アラブ首長国	南アフリカ	4	電気機械	32,718	中国	タイ	中国(ホンコン)
5	自動車部品	16,299	アラブ首長国	韓国	マレーシア	5	自動車部品	24,443	韓国	ベトナム	中国
6	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	16,218	中国	韓国	台湾	6	製造食品	21,929	中国	韓国	タイ
7	化学薬品	8,682	中国	韓国	アメリカ	7	その他日用品	15,602	中国	韓国	ベトナム
8	二輪自動車	7,933	アメリカ	ベルギー	韓国	8	木製品	14,677	中国	フィリピン	インドネシア
9	製造食品	6,150	中国(ホンコン)	台湾	中国	9	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	13,878	中国	韓国	台湾
10	輸送用容器	5,826	韓国	ベトナム	フィリピン	10	金属製品	13,860	中国	フィリピン	タイ

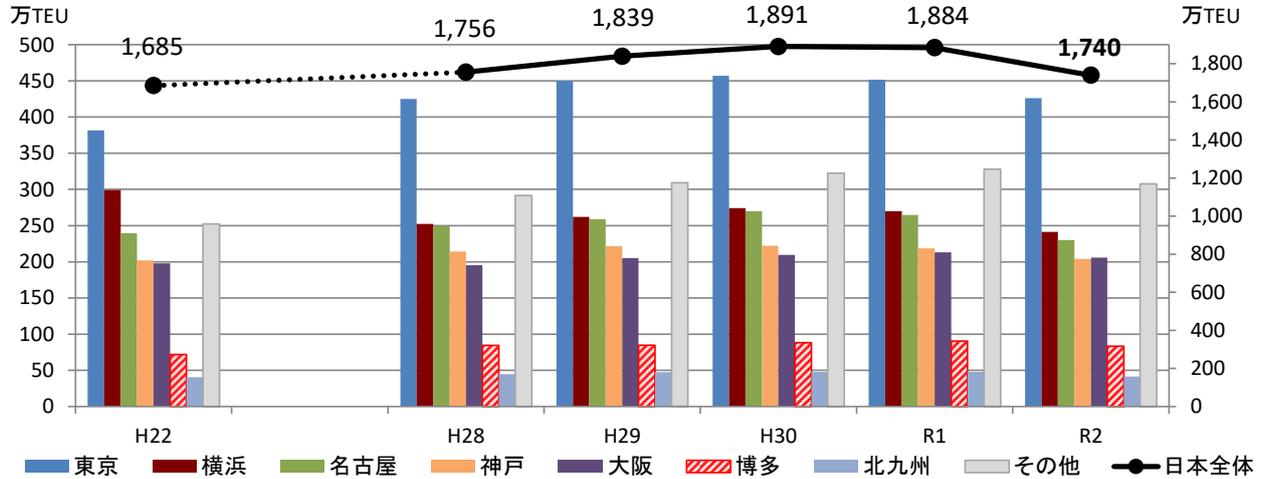
※普通・小型乗用車約 38,000 台に相当

【参考：国内主要港との比較（令和2年）】

① 外貿コンテナ取扱個数の推移と博多港のシェア

国内で輸出入される外貿コンテナの5%弱を博多港で取り扱っている。

【グラフ 1-4】



令和2年の港ごとの外貿コンテナ取扱個数は、多い順に、東京、横浜、名古屋、大阪、神戸、博多、北九州となっている。

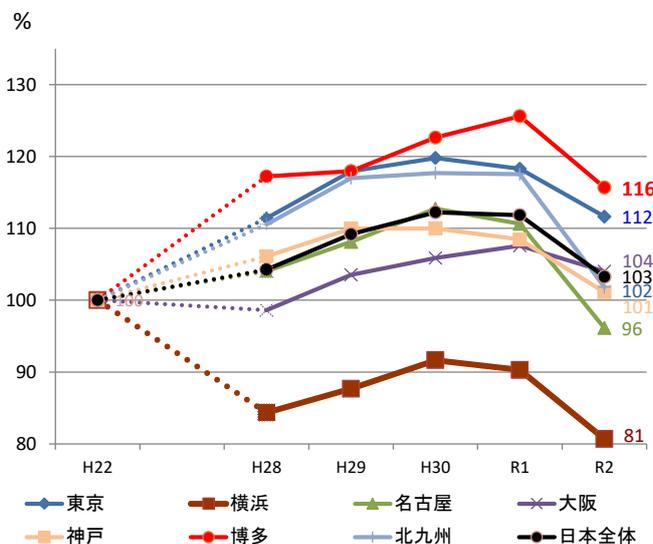
年	H28	H29	H30	R1	R2
博多港のシェア	4.8%	4.6%	4.7%	4.8%	4.8%

※国土交通省「港湾統計（年報）」より
 ※令和3年は未発表

② 国内主要港の外貿コンテナ増加率

令和2年までの10年間で比較すると、博多港の取扱いは日本全体や国内主要港よりも、高い増加率で推移している。

【グラフ 1-5】

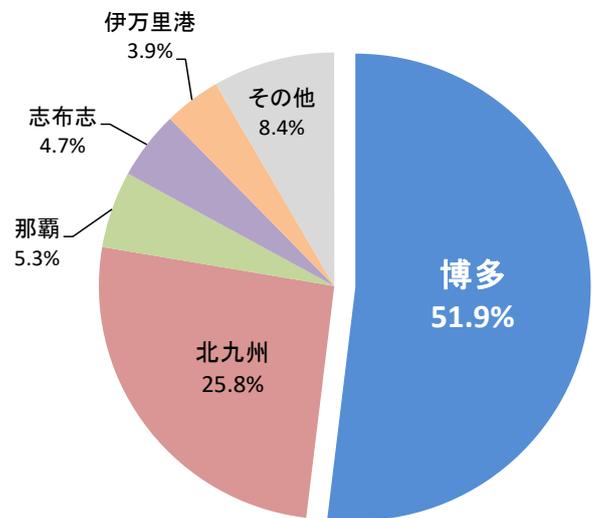


※国土交通省「港湾統計（年報）」より

③ 九州域内の取扱シェア

九州域内で取り扱われている外貿コンテナ貨物の約5割が、博多港を利用している。

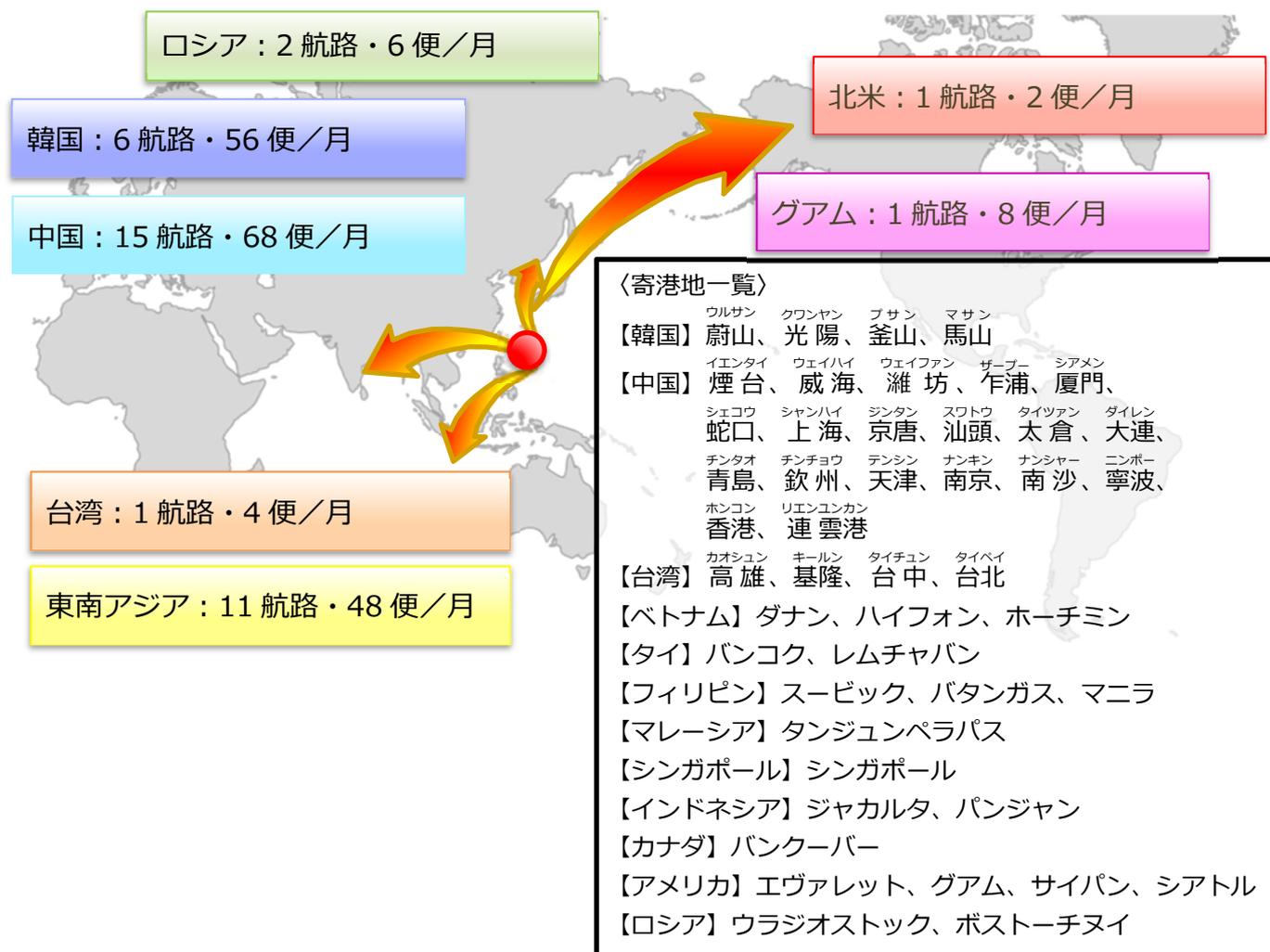
【グラフ 1-6】



※国土交通省「港湾統計（年報）」より

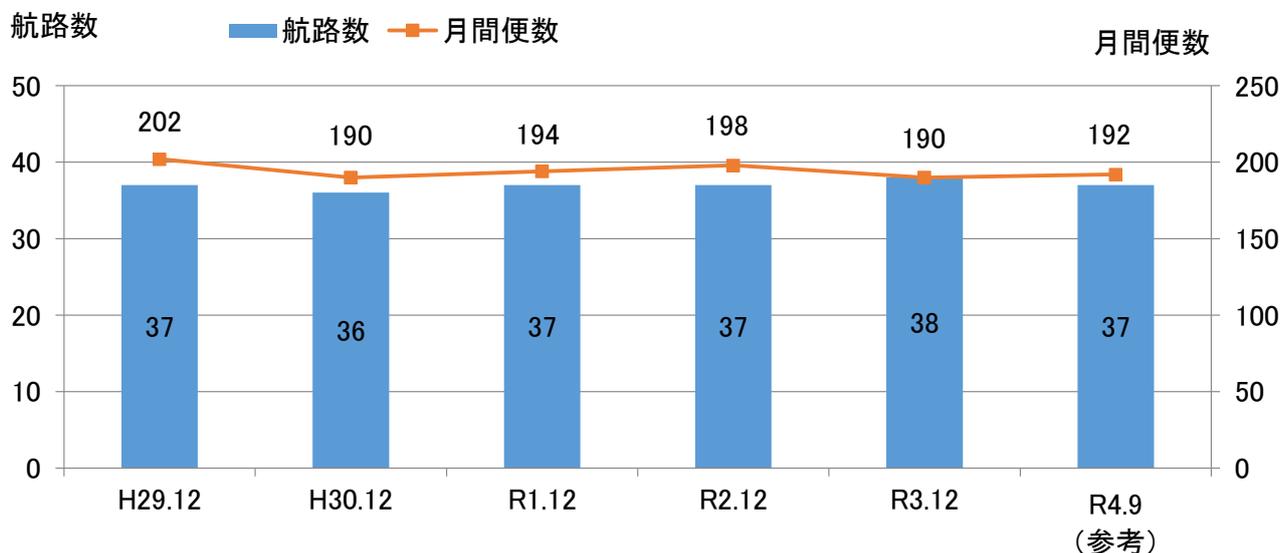
2. 国際海上コンテナ定期航路と寄港地

(令和4年9月1日現在)

37 航路・月間 192 便 (12 カ国・地域、46 港とのコンテナ物流網を形成)

■ 国際コンテナ定期航路の航路数・便数の推移

【グラフ 2】



3. 海上出入貨物（トンベース）

【令和3年港湾統計確定値】

約 3,224 万トン

外国貿易：約 1,863 万トン、内国貿易：約 1,362 万トン

(1) 海上出入貨物量の推移

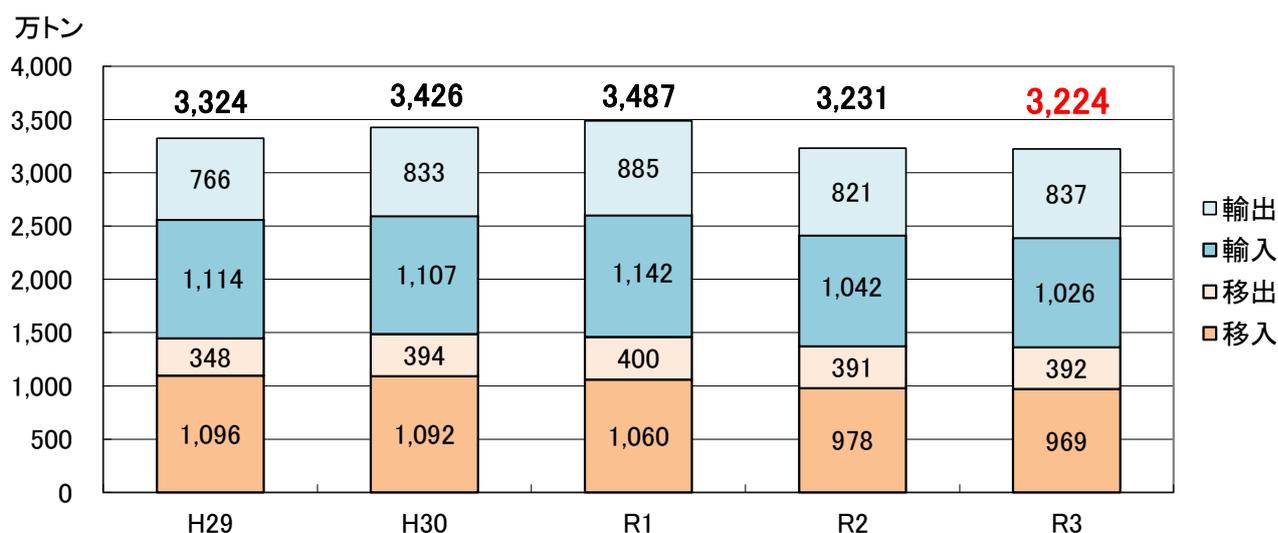
近年は 3,000 万トン台前半で推移しているが、令和3年の輸移出は前年より増加、輸移入は前年より減少しており、全体では令和2年と同程度となっている。

【表 3-1】

(単位：トン)

区 分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	増減 (R3/R2)	
					数量	数量	前年比
博多港全体	33,239,832	34,259,778	34,869,325	32,313,714	32,242,372	▲ 71,342	99.8%
輸移出	11,137,938	12,275,552	12,852,443	12,119,745	12,291,901	172,156	101.4%
輸移入	22,101,894	21,984,226	22,016,882	20,193,969	19,950,471	▲ 243,498	98.8%
うち外国貿易	18,795,222	19,400,872	20,275,931	18,624,587	18,625,360	773	100.0%
輸出	7,658,195	8,332,964	8,854,988	8,205,787	8,368,395	162,608	102.0%
輸入	11,137,027	11,067,908	11,420,943	10,418,800	10,256,965	▲ 161,835	98.4%
うち内国貿易	14,444,610	14,858,906	14,593,394	13,689,127	13,617,012	▲ 72,115	99.5%
移出	3,479,743	3,942,588	3,997,455	3,913,958	3,923,506	9,548	100.2%
移入	10,964,867	10,916,318	10,595,939	9,775,169	9,693,506	▲ 81,663	99.2%

【グラフ 3-1】



(2) 令和3年の貨物量増減の主な要因

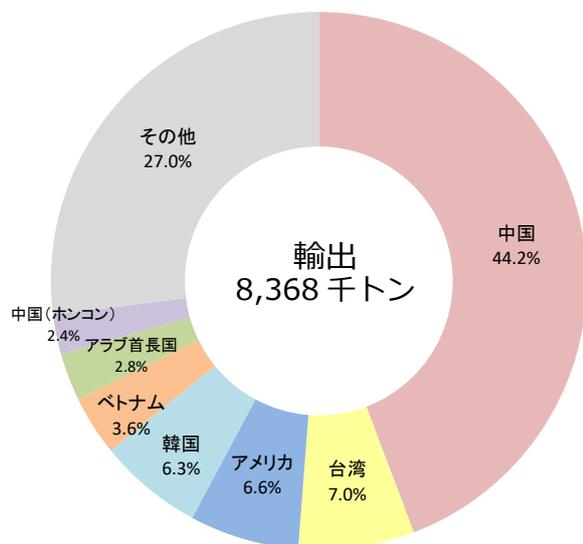
輸移出…ゴム製品（前年比+18.2万トン）や二輪自動車（同+10万トン）の増加等
 輸移入…完成自動車（同▲9.3万トン）や製造食品（同▲6.6万トン）の減少等

(3) 外国貿易 【18,625 千トン】

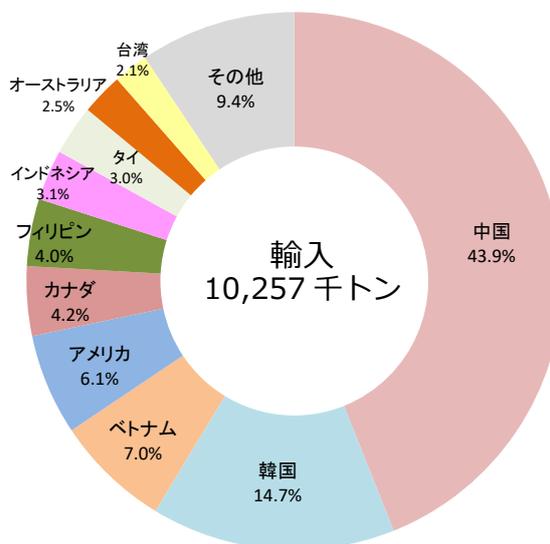
① 相手国別

輸出入ともに、中国や韓国、台湾などの東アジア地域が全体の約 6 割を占めている。

【グラフ 3-2】



【グラフ 3-3】



② 主要取扱品種

輸出では、中国をはじめとするアジアや北米、中近東向けを中心とする「完成自動車」や「ゴム製品（タイヤ等）」「自動車部品」など、自動車関連産業貨物が上位に挙がる。

輸入では、主にアジア諸国からの「家具装備品」や「衣類・身廻品・はきもの（衣類関係）」「電気機械」など、生活物資が上位を占めている。

【表 3-2】

(単位：千トン)

輸 出					輸 入						
順位	品種	取扱量	主な輸出相手国			順位	品種	取扱量	主な輸入相手国		
1	完成自動車	※ 4,144	中国	台湾	韓国	1	家具装備品	1,391	中国	ベトナム	韓国
2	ゴム製品	1,086	アメリカ	アラブ首長国	サウジアラビア	2	衣服・身廻品・はきもの	836	中国	ベトナム	韓国
3	産業機械	459	中国	ベトナム	韓国	3	電気機械	744	中国	中国(ホンコン)	タイ
4	再利用資材	390	台湾	ベトナム	韓国	4	動植物性製造飼肥料	669	韓国	アメリカ	オーストラリア
5	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	274	中国	台湾	韓国	5	麦	605	カナダ	アメリカ	オーストラリア
6	自動車部品	250	アラブ首長国	マレーシア	フィリピン	6	野菜・果物	555	フィリピン	中国	韓国
7	金属くず	218	韓国	マレーシア	台湾	7	製造食品	417	中国	韓国	タイ
8	化学薬品	188	中国	韓国	アメリカ	8	自動車部品	400	ベトナム	中国	韓国
9	二輪自動車	171	ベルギー	アメリカ	フランス	9	その他日用品	356	中国	韓国	ベトナム
10	水産品	125	ナイジェリア	中国	ベトナム	10	木製品	333	中国	マレーシア	フィリピン

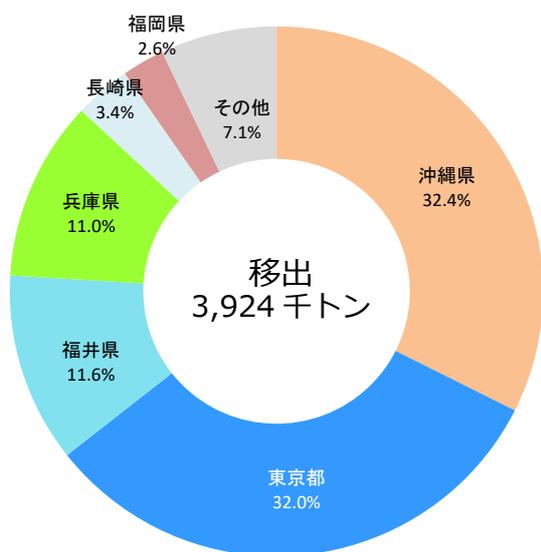
※普通・小型乗用車約 414,000 台分に相当

(4) 内国貿易 【13,617千トン】

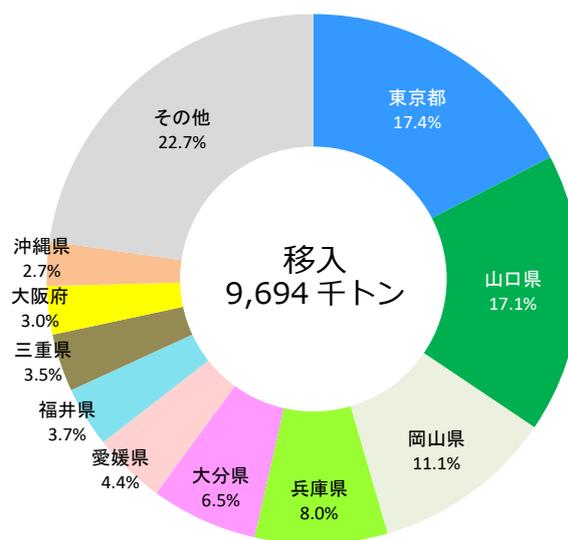
① 相手都道府県別

移出においては、定期航路を有する東京都や沖縄県との取引が多く、また、移入においては、東京都のほか、山口県、岡山県など石油製品を取扱う港との取引が多い状況となっている。

【グラフ 3-4】



【グラフ 3-5】



② 主要取扱品種

移出では、「取合せ品 (小口混載貨物等)」や「完成自動車」など、取扱品種が多岐に渡っており、主に、定期航路を有する沖縄県や東京都に移出されている。

移入では、「揮発油 (ガソリンなど)」や「その他の石油 (軽油、航空燃料油など)」などの燃料系貨物、「砂利・砂」や「セメント」「鋼材」などの建築資材、「完成自動車」が上位を占めている。

【表 3-3】

(単位：千トン)

移 出				移 入					
順位	品種	取扱量	主な移出相手都道府県	順位	品種	取扱量	主な移入相手都道府県		
1	その他輸送機械	626	東京都 福井県 兵庫県	1	揮発油	1,612	岡山県	山口県	愛媛県
2	取合せ品	520	沖縄県 東京都 長崎県	2	その他の石油	1,528	山口県	岡山県	大分県
3	完成自動車	※1 485	東京都 沖縄県 兵庫県	3	砂利・砂	1,491	海上採取	長崎県	福岡県
4	製造食品	230	沖縄県 長崎県 兵庫県	4	完成自動車	※2 1,247	東京都	三重県	沖縄県
5	鋼材	185	沖縄県 兵庫県 -	5	セメント	512	山口県	福岡県	佐賀県
6	その他日用品	175	沖縄県 長崎県 福井県	6	鋼材	434	大阪府	岡山県	兵庫県
7	とうもろこし	163	福岡県 鹿児島県 広島県	7	取合せ品	309	東京都	沖縄県	福井県
8	ゴム製品	135	兵庫県 福井県 東京都	8	動植物性製造飼肥料	246	兵庫県	福井県	岡山県
9	金属製品	133	東京都 沖縄県 福井県	9	重油	235	山口県	大分県	岡山県
10	麦	125	香川県 岡山県 広島県	10	米	224	東京都	宮城県	-

※1 普通・小型乗用車約 49,000 台に相当

※2 普通・小型乗用車約 125,000 台に相当

博多港の集荷対策について

目指すべき姿（目標）

活力と存在感に満ちた「日本の対アジア拠点港」

※平成 28 年 3 月改訂 博多港港湾計画

【博多港の強み】



成長著しいアジアに近い**地理的優位性**



陸・海・空の輸送モードが集積する**交通便利性**

取組みの方向性（戦略）

○博多港の強みを活かし、

博多港における国際海上コンテナ取扱量の**シェアが高い「東アジア」の貨物**や、近年、**増加が顕著な「東南アジア」の貨物**を中心に、集荷活動に取り組む。

アジアの貨物については、九州内の港で輸出入されている貨物だけでなく、**更なる集荷のため、「九州からの流出貨物」や、「九州域外の貨物」**についても対象を広げ、積極的に集荷活動に取り組む。

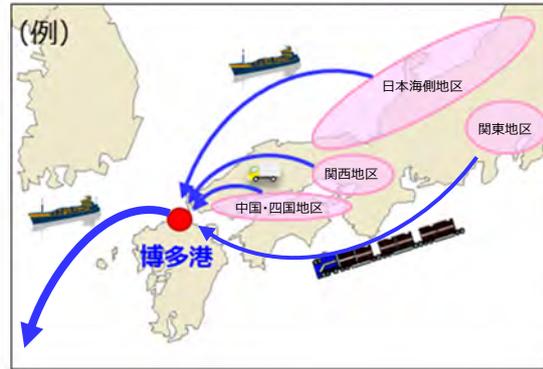
(1) 九州からの流出貨物

九州で生産または消費される貨物のうち、九州以外の港で輸出入されている貨物の取込み。



(2) 九州域外の貨物

九州域外の貨物で、博多港利用が効果的な貨物の取込み。



特に輸出貨物については、中長期的な動向等から、下記を中心とした集荷活動を強化する。

- ・「染料・塗料・合成樹脂等」、「産業機械」など、**中長期的に増加傾向で、近年も増加が顕著な貨物**
- ・海外ネット通販（越境 EC）で人気が高く、需要拡大が予想される、日本の高品質な**日用品**など
- ・国を挙げて輸出強化の取組みが進められている、日本の安心・安全な**農林水産物や食品**

※コロナ禍の状況、物流動向等を注視し、必要に応じて見直しを行う。

【体系図】



主な取組み (戦術)

(1) 船社・荷主等への企業訪問、相談対応、視察対応

企業訪問等を通じて、企業や業界全体の物流動向を把握するとともに、博多港の新規利用や利用拡大に向けた提案等を行う。

(2) 博多港物流トライアル推進事業の企画・実施

九州からの流出貨物や九州域外の貨物を含め、博多港の利用に関心のある荷主や物流事業者等のトライアル輸送を支援し、博多港の使いやすさやメリットを実感してもらうことで、本格的利用につなげる。

また、トライアル輸送の結果を、博多港利用のモデルケースとして、他の荷主等への提案に活用する。

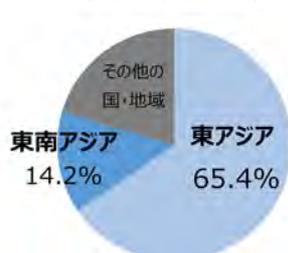
(3) セミナー・説明会の開催

東京やアジア地域でのセミナーの開催や、背後圏における説明会、オンラインセミナーなどを通じ、船社や荷主、物流事業者等に、博多港の利便性や物流事例の紹介などを行うことで、博多港の利用促進及びネットワークの構築を図る。

(4) 展示会等への出展

荷主や物流事業者など物流関係者が数多く参加する展示会等に、博多港のPRブースを出展し、関係企業との接触機会の確保や新規利用企業の掘り起こしを行う。

【参考データ】 東アジア及び東南アジアの動向

博多港における国際海上コンテナのシェア
(令和3年港湾統計)

(万TEU) 博多港における「東南アジア」の国際海上コンテナ



貨物増加のポテンシャル

- アジアにおける所得向上
- 東南アジアの人口増加
- 地域的な包括的経済連携 (RCEP)協定等による貿易拡大等

第2章 博多港の人流

1. 船舶乗降人員

【令和3年港湾統計確定値】

約58万2千人

外国航路：0人、内国航路：約58万2千人

(1) 船舶乗降人員数の推移

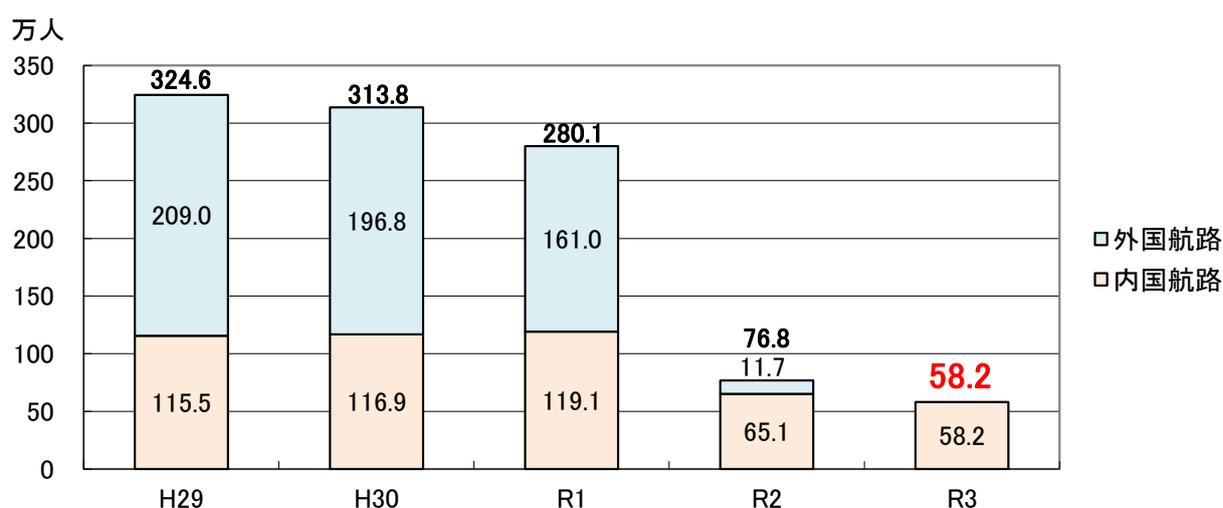
新型コロナウイルス感染症の影響による人の移動の制限等により、乗降人員数が外国航路は0、内国航路は前年より大幅に減少している。

【表1】

(単位：人)

区分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	増減 (R3/R2)	
					人数	人数	前年比
博多港全体	3,245,514	3,137,545	2,800,804	767,927	581,889	▲ 186,038	75.8%
外国航路	2,090,345	1,968,427	1,609,678	116,901	0	▲ 116,901	皆減
内国航路	1,155,169	1,169,118	1,191,126	651,026	581,889	▲ 69,137	89.4%

【グラフ1】



2. うち外国航路船舶乗降人員

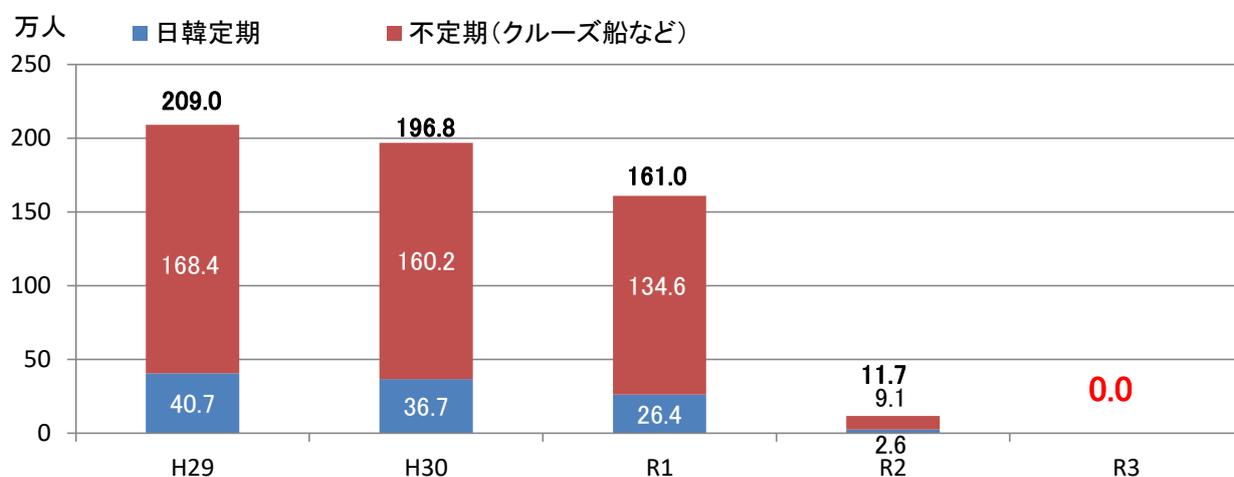
【令和3年港湾統計確定値】

乗降人員数：0人

(1) 外国航路船舶乗降人員数の推移

定期航路、不定期航路ともに、新型コロナウイルス感染症の影響による人の移動の制限により、それぞれ乗降人員数が0となっている。

【グラフ2】



【参考：国内上位5港の推移】

【表2】

(単位：人)

順位	平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年	
	港湾名	人数	港湾名	人数	港湾名	人数	港湾名	人数	港湾名	人数
1	博多港	2,120,035	博多港	2,090,345	博多港	1,968,427	博多港	1,609,678	博多港	116,901
2	長崎港	1,044,154	長崎港	1,538,571	長崎港	1,394,392	那覇港	1,347,776	那覇港	76,595
3	那覇港	761,298	那覇港	969,481	那覇港	1,217,201	長崎港	1,091,761	長崎港	69,637
4	比田勝港	362,026	八代港	573,962	比田勝港	632,842	石垣港	581,023	石垣港	36,560
5	鹿児島港	344,469	比田勝港	515,506	鹿児島港	533,180	平良港	522,529	比田勝港	23,580

※国土交通省「港湾統計(年報)」より

※令和3年は未公表

3. クルーズ船の寄港回数

【令和3年確定値】

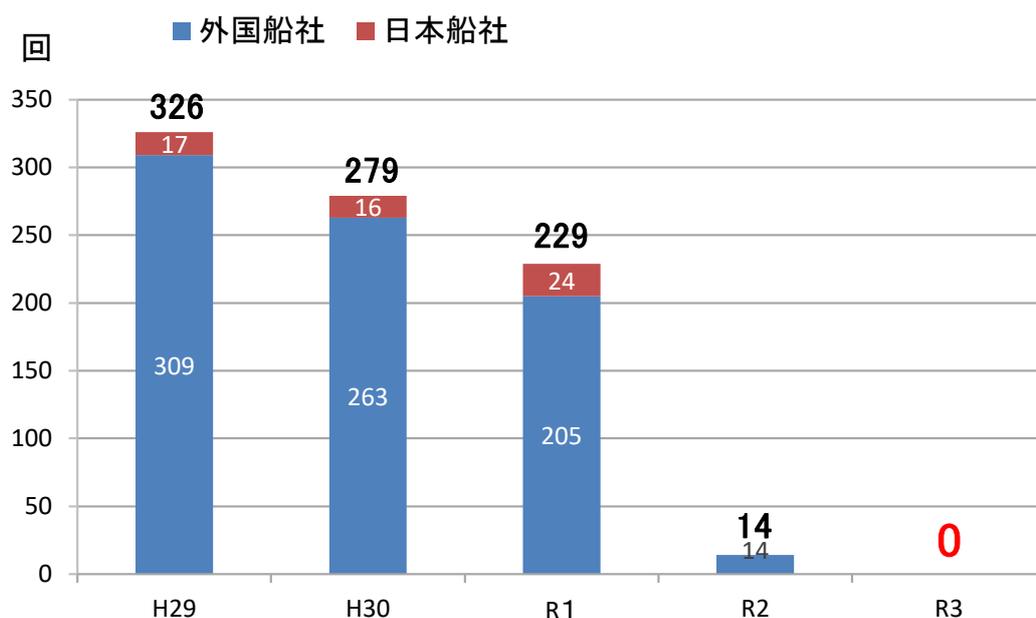
寄港回数：0回

(1) クルーズ船の寄港回数の推移

平成29年3月より中国から韓国への団体旅行が事実上禁止され、中国発のクルーズ船は1回のツアーで日韓2か国を回ることができなくなり、商品の魅力が薄れたことや、中国クルーズ市場の急拡大後の調整局面が続き、中国への配船が減少したことに伴い、近年、寄港回数が減少傾向にあった。

令和2年から新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けており、令和3年はクルーズ船の寄港がなかった。

【グラフ3】



市営渡船の経営状況

< 航路別収支 >

(単位：千円)

区分		令和3年度 決算(案)				
		志賀島	能古	玄界島	小呂島	合計
歳入	運賃収入等	51,412	211,196	57,422	20,793	340,823
	国・県補助金	411	410	123,732	60,739	185,292
	計	51,823	211,606	181,154	81,532	526,115
歳出	運航経費	364,309	371,220	236,612	151,022	1,123,163
運航収支		▲ 312,486	▲ 159,614	▲ 55,458	▲ 69,490	▲ 597,048
公債費(市債償還分)等		13,897	44,895	31,639	60	90,491
繰入金		326,383	204,509	87,097	69,550	687,539

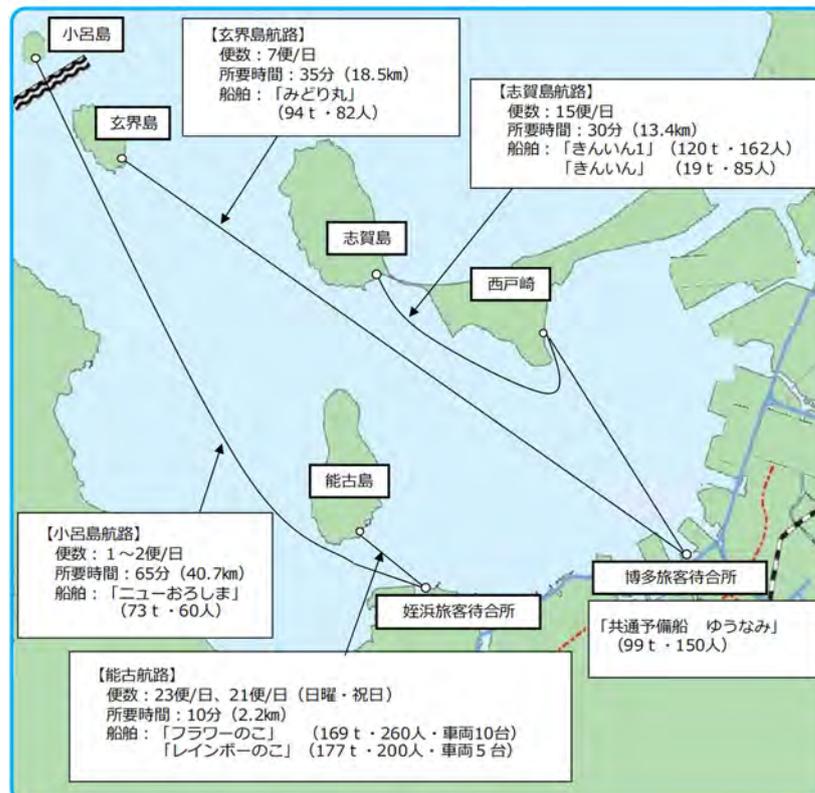
< 取り組み状況 >

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、生活航路として、地元の方々に安心してご利用いただけるよう、引き続き感染症対策を徹底するとともに、各航路における観光利用の促進に努め、増収増客を目指す。

◆具体的な感染症対策の取り組み

- ・待合所、船内客室の換気及び座席、手すり等の消毒
- ・乗船時のマスクの着用、手指アルコール消毒の呼びかけ
- ・多客時の増便による船内の混雑解消 など

< 航路概要図 >



第3章 博多港の入港船舶

1. 入港隻数及び総トン数

【令和3年港湾統計確定値】

入港隻数：24,150隻

総トン数：約5,154万総トン

外国航路：2,596隻・約3,175万総トン、内国航路：21,554隻・約1,979万総トン

(1) 入港隻数及び総トン数の推移

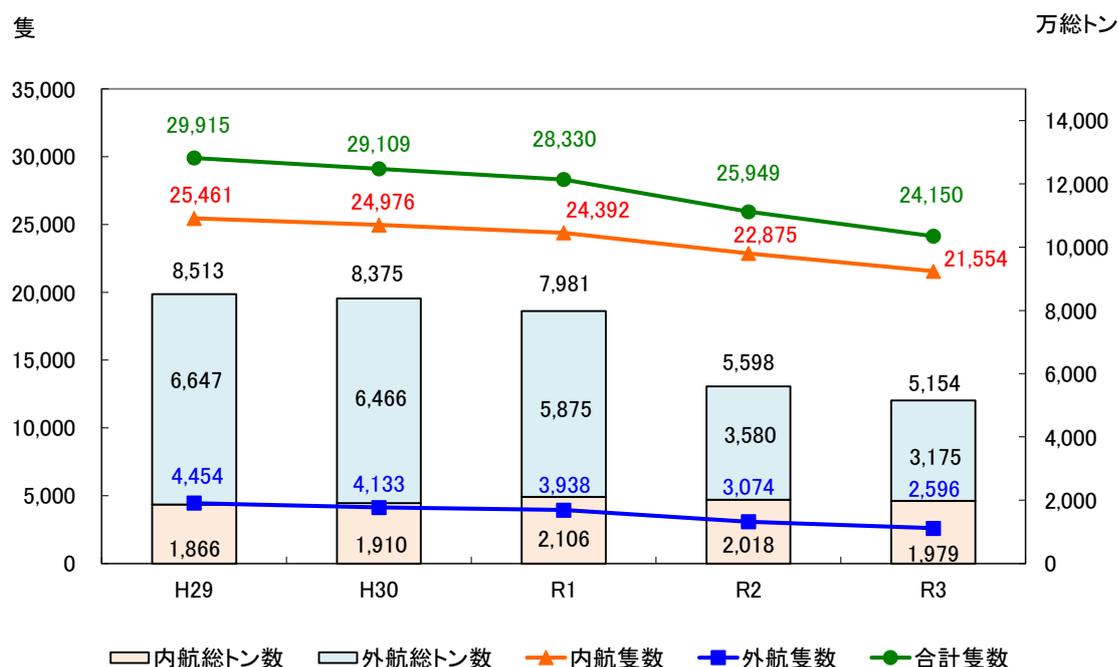
入港隻数、総トン数ともに、近年減少傾向にある。令和3年は客船やフルコンテナ船等の減少により、入港隻数、総トン数ともに減少している。

【表1】

(単位：隻、総トン)

区分	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	増減 (R3/R2)	
					数量	数量	前年比
入港隻数	29,915	29,109	28,330	25,949	24,150	▲ 1,799	93.1%
外国航路	4,454	4,133	3,938	3,074	2,596	▲ 478	84.5%
内国航路	25,461	24,976	24,392	22,875	21,554	▲ 1,321	94.2%
総トン数	85,134,616	83,754,376	79,805,066	55,983,314	51,540,787	▲ 4,442,527	92.1%
外国航路	66,470,908	64,657,295	58,748,120	35,802,548	31,750,203	▲ 4,052,345	88.7%
内国航路	18,663,708	19,097,081	21,056,946	20,180,766	19,790,584	▲ 390,182	98.1%

【グラフ1】



第4章 福岡空港の概況

1. 乗降客数

【令和3年確定値】

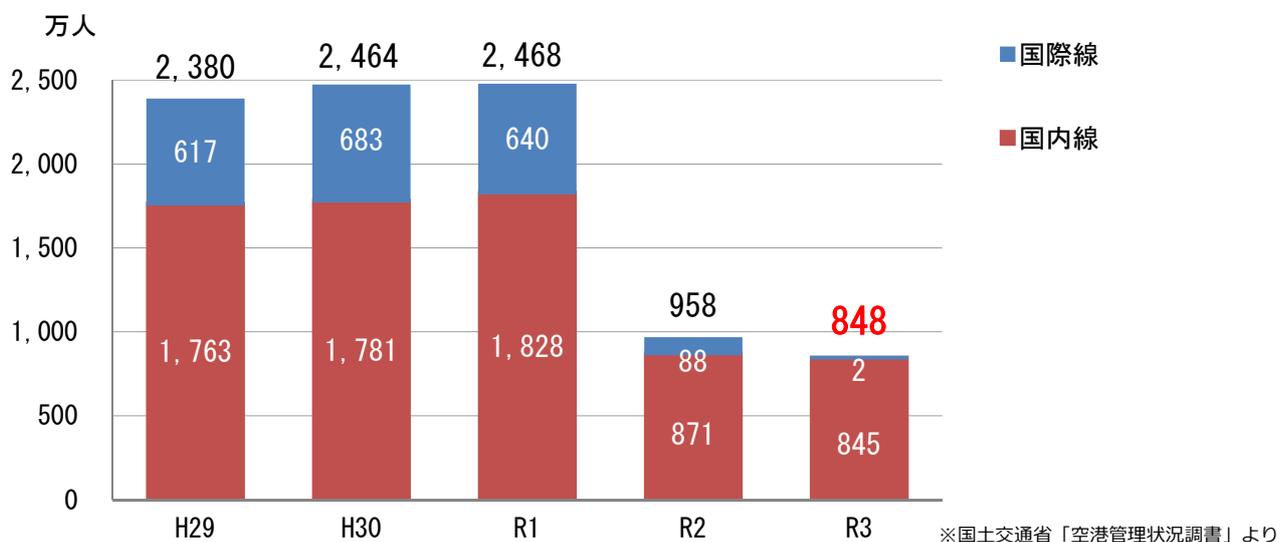
乗降客数：約 848 万人

国際線：約 2 万人 国内線：約 845 万人

(1) 乗降客数の推移

国内線・国際線ともに、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年と概ね同程度となっている。

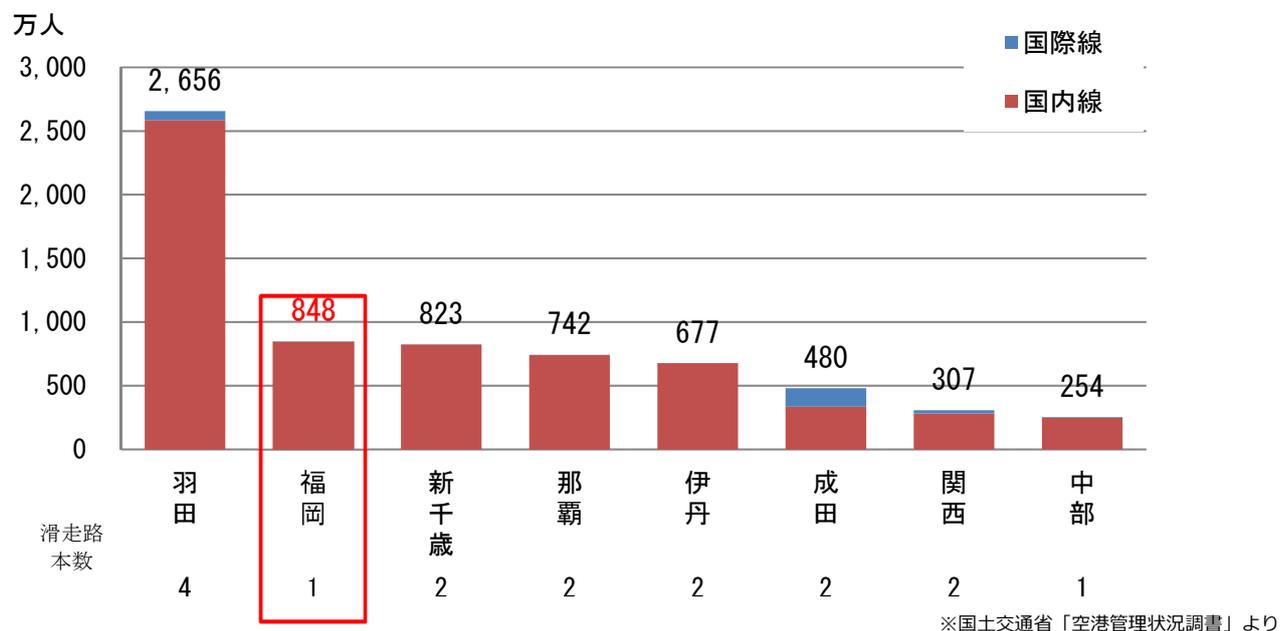
【グラフ 1-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和3年）】

福岡空港の乗降客数は国内第2位である。

【グラフ 1-2】



2. 貨物取扱量

【令和3年確定値】

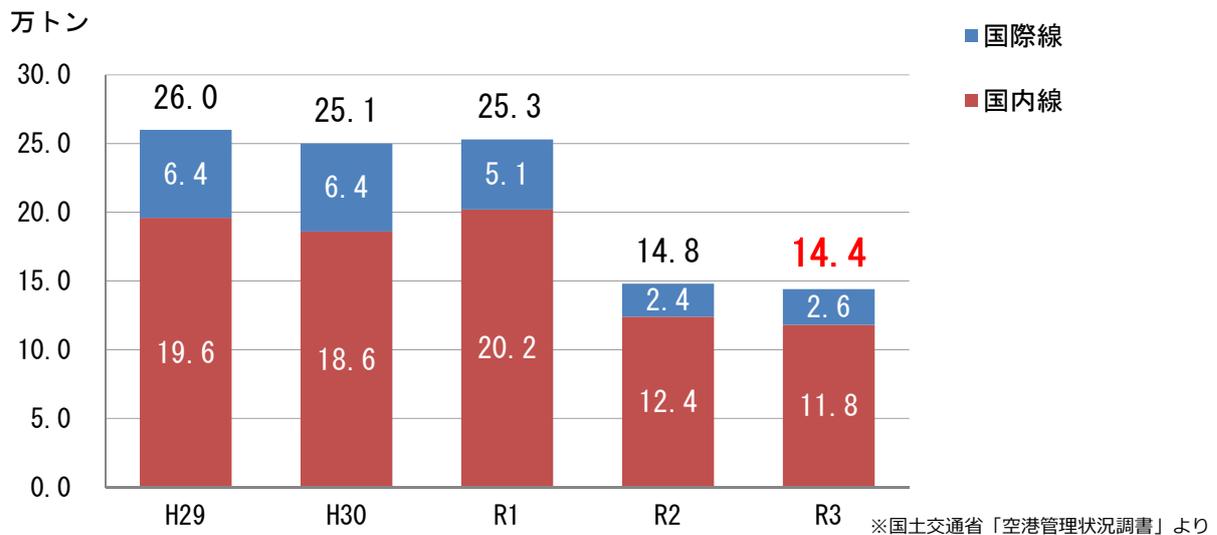
貨物取扱量：約 14 万 4 千トン

国際線：約 2 万 6 千トン 国内線：約 11 万 8 千トン

(1) 貨物取扱量の推移

国内線・国際線ともに、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年と同程度となっている。

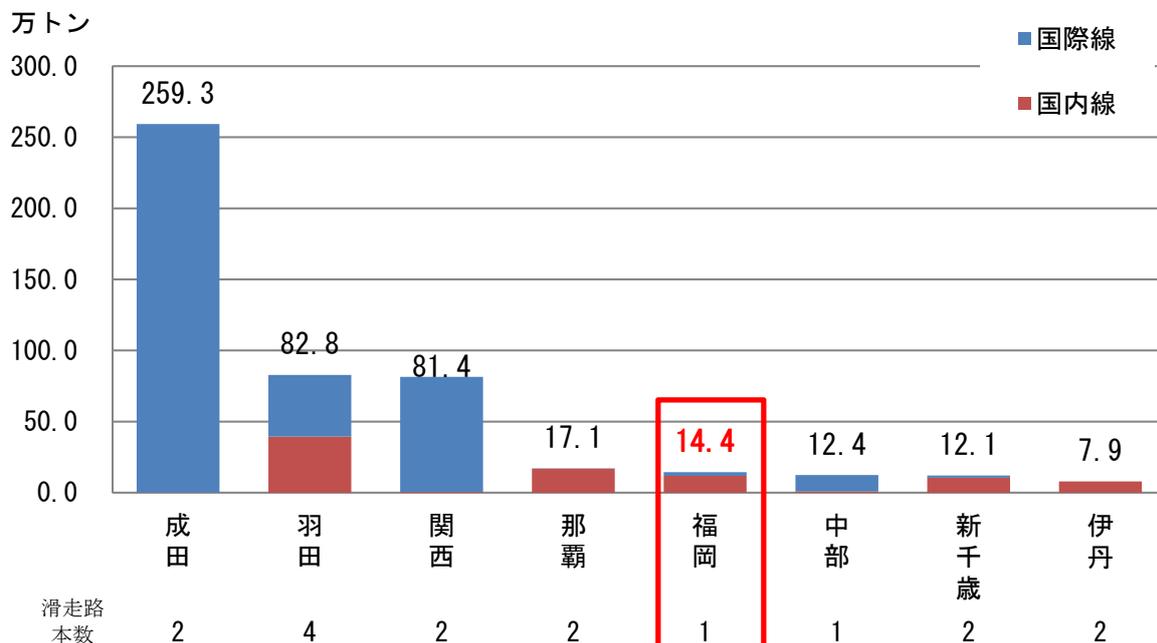
【グラフ 2-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和3年）】

福岡空港の貨物取扱量は国内第5位である。

【グラフ 2-2】



3. 発着回数

【令和3年確定値】

発着回数：約 10万8千回

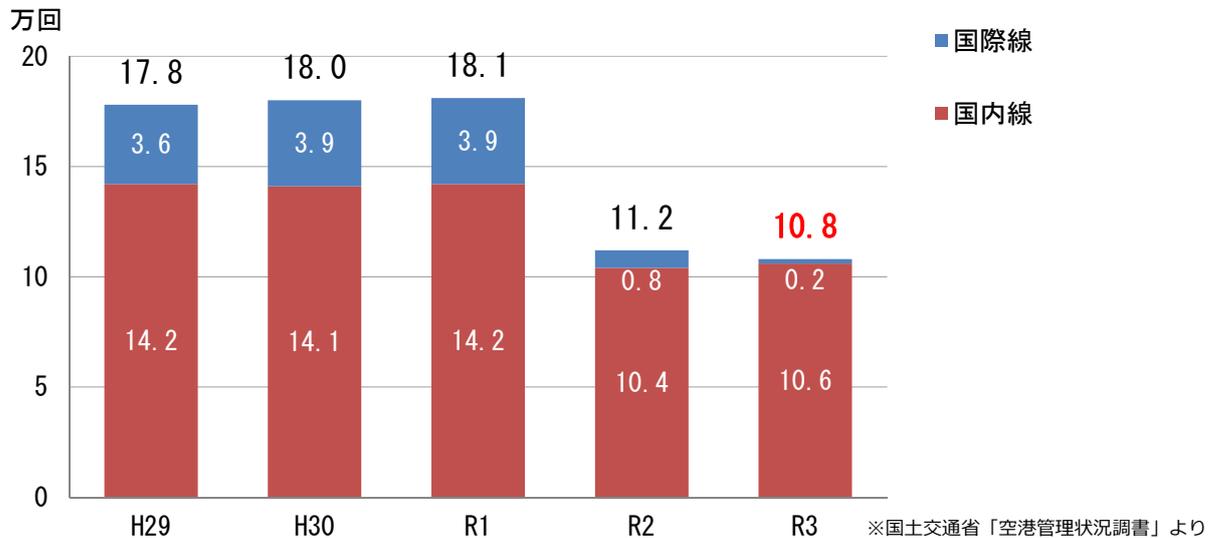
国際線：約 2千回

国内線：約 10万6千回

(1) 発着回数の推移

国内線・国際線ともに、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年と同程度となっている。

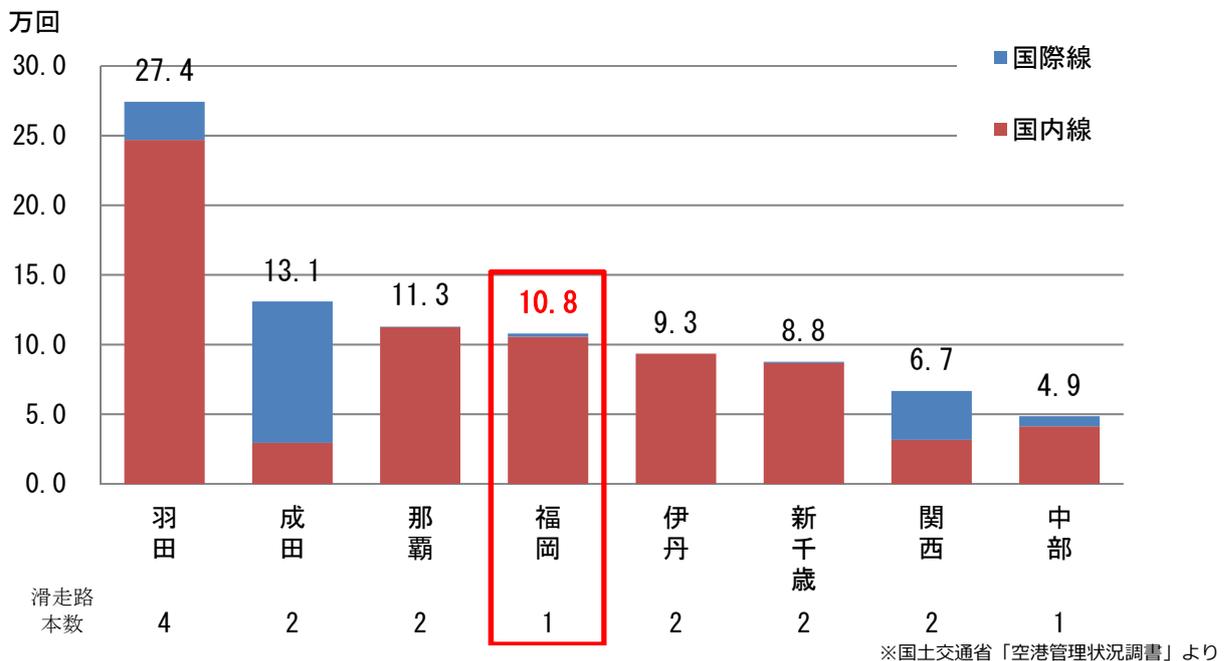
【グラフ 3-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和3年）】

福岡空港の発着回数は国内第4位である。

【グラフ 3-2】



4. 路線状況

令和4年9月現在で、路線数は国際線が21路線、国内線が27路線となっている。
また、発着便数は国際線が週686便、国内線が1日376便となっている。

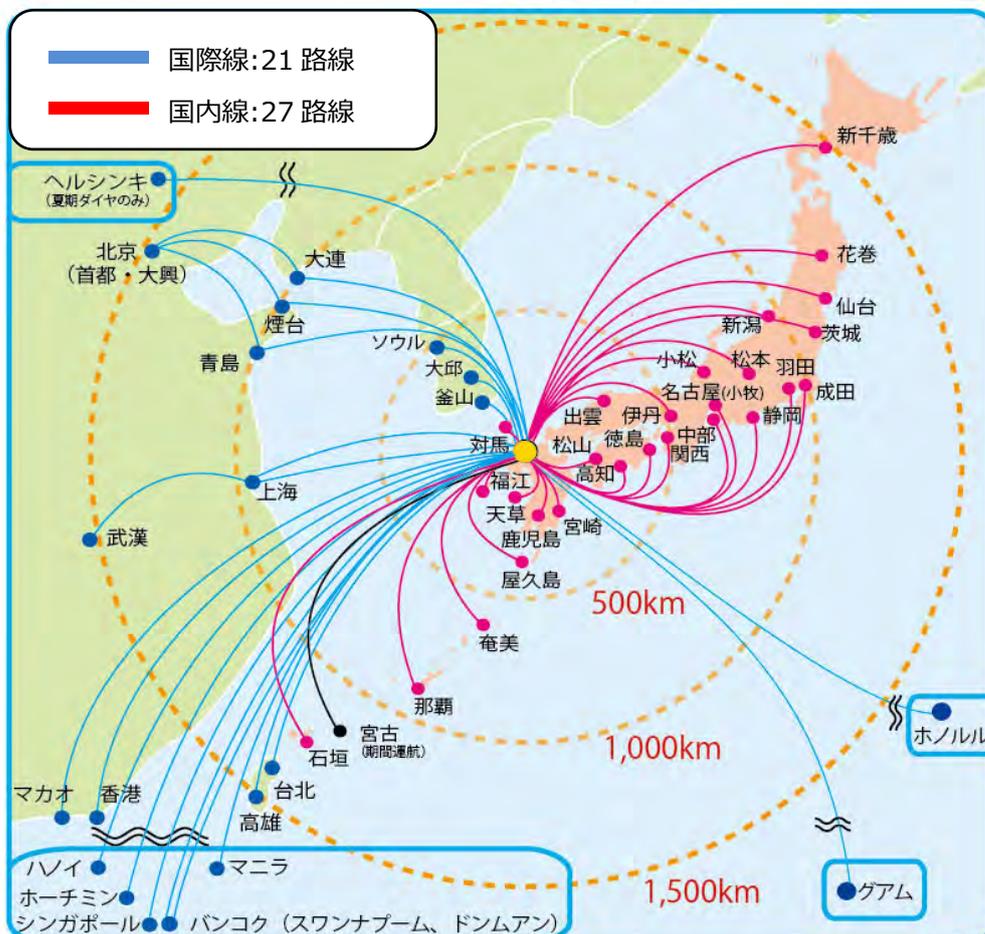
なお、新型コロナウイルス感染症の影響により運休・減便が発生している。

福岡空港の時刻表(9月)を基に福岡市港湾空港局集計

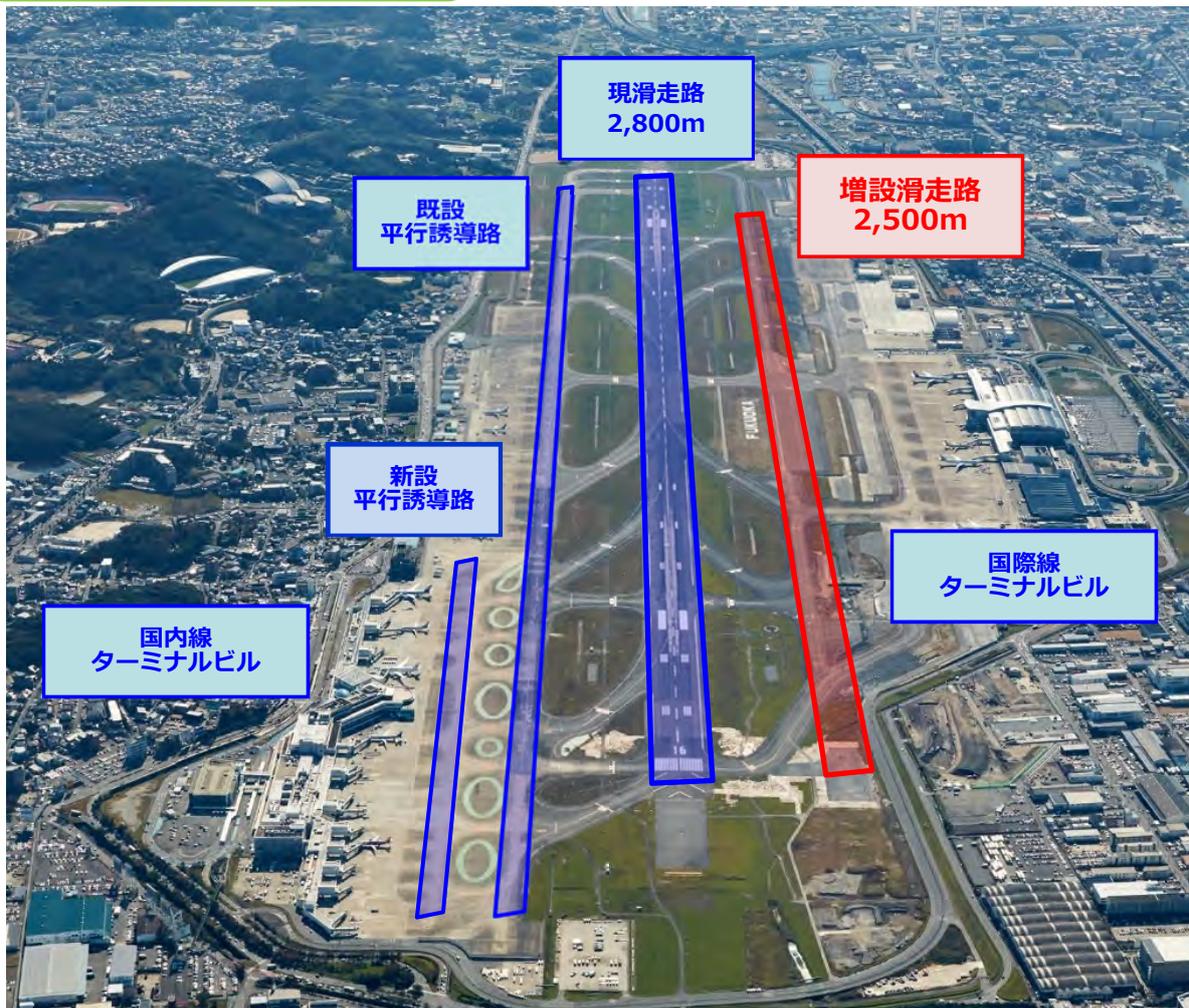
区分	路線数	発着便数	乗入航空会社数	行先
国際線	21	686 (便/週)	28	ソウル、釜山、大邱、上海、武漢、北京、大連、 青島、煙台、台北、高雄、香港、マカオ、 マニラ、バンコク、ハノイ、ホーチミン、 シンガポール、グアム、ホノルル、ヘルシンキ ※下部は時刻表上「運休」 計21都市(9カ国・地域)
	11	578 (便/週)	12	※時刻表上「運休」の路線数等
国内線	27	376 (便/日)	13	羽田、成田、新千歳、花巻、仙台、新潟、 小松、松本、茨城、静岡、中部、名古屋(小牧)、 関西、伊丹、出雲、松山、徳島、高知、 対馬、福江、天草、宮崎、鹿児島、屋久島、 奄美、那覇、石垣 計27空港

※乗入航空会社については、コードシェアのみの会社を除く

福岡空港路線図(令和4年9月現在)



福岡空港の機能強化



滑走路増設事業

航空機混雑の解消や将来の航空需要に適切に対応するため、滑走路増設事業を実施(令和 7 年 3 月末供用開始予定)

平行誘導路二重化

空港の利便性向上や航空機の慢性的な遅延の緩和等を目的として、平行誘導路の二重化を実施(令和 2 年 1 月 30 日完了)

福岡市・福岡国際空港(株)協議会の開催実績（令和4年3月以降）

福岡市は、運営会社との間で、相互の協力と密接かつ持続的な連携により福岡空港及び地域の活性化を図ることを目的として、パートナーシップ協定を締結し、市独自の協議の場(福岡市・福岡国際空港(株)協議会)を設置

開催日・出席者	主な協議内容
<p>令和4年6月2日（幹事会）</p> <p>【福岡市】 港湾空港局長、理事、 空港振興部長 他</p> <p>【運営会社】 副社長、経営企画本部長 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市から、前回の幹事会以降に開催された市議会における、空港関連の主な質疑について説明。 ・運営会社から2021年度決算について報告があり、新型コロナウイルス感染症の影響により、経営環境は依然厳しい状況にあるが、自助努力や国の支援策活用等により2022年度の資金繰りを確保するとの説明。 ・意見の事業計画への反映を確認するとともに、市から、厳しい状況にあっても引き続き安全・安心な空港運営や周辺地域に寄り添った空港運営を依頼し、運営会社としても、しっかり取り組んでいくことを確認。 ・カーボンニュートラルについて、国の施策や「福岡市地球温暖化対策実行計画」を踏まえ、運営会社としても、空港管理者である国と連携し、空港脱炭素化に取り組んでいくことを確認。 ・市の主要施策である、Fukuoka Art Next、Fukuoka Green Nextを紹介し、運営会社からは、両施策に対し前向きに検討していく旨の発言があった。